

昭和レトロな雰囲気  
「亀吉の湯」



## 昭和レトロな銭湯 “亀吉の湯” 登場 湯本、古滝屋にオープン

近年、十〜二十代の若者を中心に「昭和レトロ」がブームとなっている。当時のデザインや暮らしなどを再評価する文化のことで、新鮮さや懐かしさを取り入れた「商品開発」「商売」も熱を帯びている。

こうした中、常磐湯本町の老舗旅館「古滝屋」は八月八日、館内八階に「昭和レトロな銭湯」



をモチーフにした貸し切り温泉「亀吉の湯」をオープン。

同旅館で飼われていたカメラの「亀吉」が名称の由来。広さ約八畳の内湯と、小スペースながら備えられた外湯の二つがある。源泉かけ流し。

このうち内湯は、ケロリンの風呂桶（おけ）や昔ながらの玉石タイルなどが使われ、どこか懐かしい空間が広がる。

最も目を引くのは、二×三メートルほどの大型壁画。温泉街の伝説にちなんだ「ツル」「亀吉」や「ズリ山」などが明るい色彩で描かれている。国内外で活躍するアーティスト・河野無以さん（三二）が手掛けた。

## 「小名浜道路」が開通

地域活性化に期待高まる

常磐道と小名浜港を結ぶ自動車専用道路「小名浜道路」（延長八・三キロ）が八月八日、全線開通した。

小名浜道は、東日本大震災からの復興を支援する「ふくしま復興再生道路」に位置付けられ、二〇二二（平成三十四）年度から県が整備を進めてきた。総工費は約七百三十億円。

泉町を起点とし、添野町を経由して山田町に至るルート。常磐道にアクセスする「いわき小名浜」をはじめ、「いわき山田」

「いわき添野」「いわき泉」の四ICが新設された。

所要時間は半分以上

開通に伴い、常磐道から小名浜港までの所要時間は従来の約三十分から約十三分へと半分以上に短縮。物流・産業・観光・防災の面で広く地域活性化に貢献すると期待されている。

同日には添野IC付近で開通式が開かれ、地元選出の国会議員ら関係者約百三十人が出席。内堀雅雄福島県知事が「復興

年齢や障がいの有無にかかわらず温泉を楽しんでもらうと、創業三百三十周年の記念事業で開設。一組最大六人で、四十五分間の利用。料金は三千三百円（税込み）。一泊二食付きプランを予約の場合は、無料で使用できる。時間は午後三時から午前一時まで。詳しくは、同館（電話四三二二九一）まで。

### 小名浜生協病院

### 小学生が医業体験 MRIの役割学ぶ

夏休みを利用して、小学生が医療にかかわる職業を体験する



テープカットとくす玉割りで開通を祝った

と地方創生に大きく寄与すると確信している」とあいさつ。テープカットとくす玉割り、開通パレードで祝った。



MRIの説明を受け、体験する児童ら

プログラム「メディカルミッションわたしのまちの病院」が先ごろ、小名浜岡小名の浜通り医療生活協同組合小名浜生協病院で行われた。

今回初めて実施した同プログラムは、地域医療の現場で働く人々と触れ、仕事を体験する中で、命の大切さや働く楽しさ、医療に対する興味・関心を深めることが目的。

看護師や薬剤師、理学・作業療法士、放射線技師などの仕事内容について学び、体験する。参加した二十一人の児童らは、薬局で医師の処方箋（せん）で調剤した薬の内容を患者に伝えたり、MRI検査の役割や説明を受けるなどの体験を通じ、医療現場の現状を学んだ。

体験終了後、参加児童全員に修了証が手渡され、菅家新理事長からの講評に、真剣に耳を傾けていた。